



出張報告届

令和 6 年10月15日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田・無所属の会

代表者氏名 白石 透

出張者氏名 白石 透

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	トーサイクラシックホール岩手（岩手県盛岡市）
期間	令和 6 年10月 9 日から令和 6 年10月11日まで 3 日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	

第 19 回 全国市議会議長会研究フォーラム IN 盛岡

日程：令和 6 年 10 月 9 日（水）・10 日（木）・11 日（金）

場所：トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）

講師・パネリスト

菅 義偉 第 99 代内閣総理大臣

土山 希美枝 法政大学法学部教授

越智 大貴 一般社団法人 WONDER EDUCATION

渡辺 嘉久 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

遠藤 政幸 盛岡市議会議長

白鳥 敏明 伊那市議会前議長

諸岡 覚 四日市市議会議員

服部 香代 山鹿市議会議長

視察 宮古市・大槌町・釜石市・遠野市

東日本大震災からの復興

初日の講演は菅元総理大臣の基調講演の予定であったが、衆議院選挙が 27 日に決まったため、ビデオ参加となった。

その後、井柳 美紀 静岡大学人文社会科学部法学科教授のコーディネートにより「地方議会の課題と主権者教育」というテーマでディスカッションが始まった。

議長会による主権者教育の推進の主たる目的には投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなど地方議会の課題の他、議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進すること、いわゆる出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取組に対する支援を講ずるかなどが挙げられる。

改正前の教育基本法（昭和 22 年）第 8 条（政治教育）良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。また、文科省通知「高等学校における政治的教養と政治的活動について」（昭和 44 年）には現実の具体的な政治的事象には、教師自身も教材としてじゅうぶん理解し、消化して客観的に取り扱うことに困難なものがあり、ともすれば教師の個人的な見解や主義主張がはいりこむおそれがあるので、慎重に取り扱うこと。と明記されている。

その後、盛岡市の高校生議会の取組、選挙権年齢の 18 歳引き下げの

論点、主権者教育の限界点、議員との接点の持ち方、方法

また模擬議会の例などのディスカッションが行われた。

議会ごとに状況は異なるが、各々で色々と模索されていることがよく伝わった。吹田市も参考にできそうな取り組みもあった。今後の活動の参考にしたい。

閉会後には東日本大震災の津波遺構である 6 階建ての「たろう観光ホテル」を視察し大津波の破壊力を感じることができ、また防災意識の向上に役立った。震災学習列車では途中下車も交え津波到達地点、また引き戻しにより、甚大な被害を受けた場所、釜石祈りのパーク、遠野市後方支援資料館、宝来館などを視察させてもらった。震災後、現在の様子を視察させてもらい住居が高台に移り「新しいまちが出来たんだなあ」と思えた場所もあれば、このまま？と思う場所もあった。いずれにしても、まだまだ傷跡を感じる場所も多々あった。最後にとても印象に残った言葉があり、報告したいと思う。

【避難場所と避難所はまったく違います】との言葉である。防災施設に多くの人が集まりそこで多くの人命が失われたとのことであった。避難すべき状況がくれば、逃げるのは、避難場所！その後、落ち着いてから生活の拠点となるのが避難所である。との言葉はとても

印象深く残った。

最後にこの視察を通して帯広市議会,河内長野市議会の方とも議会状況、構成、課題など色々と意見交換でき、有意義なフォーラムとなった。